4.　編集後記

『古代東ユーラシア研究センター年報』第4号をお届けいたします。

平成26年度からスタートした研究プロジェクト「古代東ユーラシア世界の人流と倭国・日本」も本年度で4年目を迎え、5月にはこれまでの研究成果を整理して中間報告書を提出いたしました。

本年度は、前近代における日本列島と朝鮮半島との交流関係、および日本とベトナムとの交流関係を文献史・考古学的に把握することを目的として研究を進めることとしました。これに基づいて、平成29年7月15日（土）に第1回シンポジウム「古墳時代の渡来人 - 西と東 -」を開催し、武末純一先生に「日韓交流と渡来人―古墳時代前期以前―」、亀田修一先生に「古墳時代の渡来人―西日本―」、土生田純之先生に「古墳時代の渡来人―東日本―」というテーマでご報告いただきました。報告および討論を通じて、朝鮮半島からの渡来人集団を把握するための考古学的方法論、弥生時代～古墳時代の北部九州、西日本、東日本における対外交流および渡来人集団の実態などを明らかにすることができました。これらの研究成果は、本誌の「特集　古墳時代の渡来人－西と東－」に掲載しております。また、このシンポジウムには382名という多数の方々にご来場いただきました。ご参加いただいた方々に深くお礼申し上げます。

平成29年11月18日(土)には第2回シンポジウム「ベトナム･日本の交流よりみた前近代東ユーラシア」を開催し、ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学から3名の先生をお呼びして、ご報告いただきました。Phạm Hoàng Hưng（ファム・ホン・フン）先生に「ベトナムにおける日本前近代史研究」、Dang Hong Son（ダン・ホン・ソン）先生に「ベトナムにおいて発掘された17世紀の肥前焼き物」、Phan Hai Linh（ファン･ハイ･リン）先生に「象を通じてみた越日交流」というテーマでご報告いただき、報告および討論を通じて、ベトナムにおける日本研究の現状を把握するとともに、ベトナム出土の肥前陶磁や象貿易について考古学・文献史学から検討し、近世における日越交流の実態を明らかにすることができました。これらの研究成果は、本誌の「特集　ベトナム・日本の交流よりみた前近代東ユーラシア」に掲載しておりますが、Son先生の論文の日本語訳が間に合いませんでした。心よりお詫び申し上げます。

また、今年度に実施した群馬県金井遺跡群関係資料調査およびベトナム資料調査の報告も合わせて掲載いたしました。金井遺跡群は榛名山二ツ岳が6世紀初頭に噴火し、その火砕流（Hr-FA）で埋没した遺跡であり、甲冑人骨が発見されたことでも知られています。榛名山東南麓一帯は古墳時代の渡来系文物が集中する地域であり、渡来人集団の実態を把握するうえで極めて重要なフィールドといえます。また、今回のベトナム資料調査では、中部ホイアンおよび北部ハノイで資料収集をおこないましたが、ハノイではベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学の先生方にご案内いただき、タンロン遺跡やルイロウ遺跡の発掘現場を見学することができました。今回の調査によって、前近代における日越交流、海のシルクロードを通じての文化交流、中国大陸との人流・交流に関して理解を深めることができました。ご案内いただきましたベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学の先生方にお礼申し上げるとともに、今後も学術交流を継続していきたい

と考えています。

また、本年報には、長年にわたりベトナムで発掘調査に携わってこられた人間文化研究機構の菊池百里子先生にもご寄稿いただきました。ご報告・ご寄稿いただきました諸先生方に深く感謝申し上げます。

来年度も7月と11月にシンポジウムを予定しています。本プロジェクトも来年度がいよいよ最終年度となり、研究の総括をおこなう必要があります。本プロジェクトに関して、忌憚のないご意見を賜れれば幸いです。

（高久健二）